



思い描く図書館づくり【第18回】「自動車図書館」の実証実験を始めました

「図書館が遠い」「車で外出が難しい」という人にも、本を身近に感じ、より親しんでもらいたい。そのような思いのもと、令和10年度からの「自動車図書館」本格稼働へ向けて準備を進めています。

実証実験

今年度は、皆さんが利用しやすい場所を検証するため、市内各施設などを対象に聞き取り調査を行っています。その中で要望のあった福来コミュニティセンターと北浜市民交流センターで実証実験を行いました。

当日は車に本棚を積んで、司書が施設を訪問。車両内での本の貸し出しの他、運んできた本を施設内に持ち込んで展示・貸し出しを行いました。これらに加え、図書館で借りた本の返却や図書カードの発行にも対応しました。

参加者からは「図書館に行かなくても、本が読めるのはうれしい」「他で借りた本も返すことができるのありがたい」といった期待の声が寄せられました。さらに「お薦めの小説は?」「大活字本を教えてください、読

むのが楽になった」といった本を通じた司書とのやりとりも生まれるなど、身近な場所で交流を楽しむことができる充実した時間となりました。

これからの取り組み

引き続き、地域のニーズに合わせた最適な巡回ルートや運行計画を策定するため、実証実験を重ねていきます。図書館が行う取り組みについての情報は、図書館ホームページや公式 Instagram で随時発信していきます。

《図書館課》

▶図書館公式
ホームページ



▶図書館公式
Instagram



▲車両内の本棚



▲司書が本を紹介



公共施設の未来のカタチ【第2回】「安全・安心」を未来へつなぐ予防保全

7月号では、多くの公共施設が古くなっている現状と、今後の3つの基本方針をお伝えしました。今回は、その方針の一つである「安全・安心な施設環境の確保」について紹介します。

壊れる前に直す「予防保全」への転換

私たちが普段利用している公民館や学校などの公共施設の多くは、建設から40年以上が経過し、老朽化が進んでいます。これまでは「壊れてから直す」ことがほとんどでしたが、これからは包括管理業務の導入によりプロ（民間企業）の専門的なノウハウを生かして「定期的に点検し、壊れる前に直す」方針へ切り替えます。

施設の点検や修繕の窓口を一つにまとめることで、ばらつきのあった点検の質を統一し、不具合の早期発見につなげ、全庁一律の基準で予防保全を徹底していきます。

戦略的な長寿命化

今後、継続して利用する施設は「目標使用年数90年」を掲げ、戦略的な長寿命化に取り組みます。30・50・70年の主要な節目で計画的に改修を行うことで、新築や建て替えを抑制し、将来にわたりかかる経費を大幅に縮減します。

このように致命的な損傷や不具合を未然に防ぐことで、今ある資源を子どもや孫の世代まで「安全・安心」に残していける仕組みづくりを行っていきます。

《資産マネジメント推進課》



▲消防設備などを点検



自身の選手経験を生かし、舞鶴市内の子ども達にレスリングを指導する山田さん。今年に入り日星高校の教え子から2人の全国大会チャンピオンが誕生するなどその活躍が注目されています。今回は、山田さんの指導者としての考え方に迫りました。

舞鶴市レスリング協会理事長
日星高レスリング部顧問
山田 来哉 さん



▲選手時代の山田さん（上）

父がレスリングの選手だった影響で、幼少期から大学4年生まで競技を続けました。大学3年生の時、舞鶴から練習に来た子ども達との交流がきっかけで、舞鶴のレスリングクラブの先生に指導者の道へ誘われました。

当時は指導者になるつもりはなかった私ですが、熱心に声をかけられ、何度かクラブに参加していた際、子どもから「教わった技で試合に勝てました。また技を教えてください」という手紙をもらったことで、指導者の道を意識するようになりました。

また、大学で学んだコーチング

レスリング指導者としての道

論を生かして、長期的に指導に当たるとは自分自身の挑戦にもなると思います。引き受けました。

強い選手やチームは、レスリングだけを頑張るのではなく、礼儀正しく日々の学校生活をしっかりしてこそ、結果につながり、周囲からも応援されると考えています。将来の進路を考えると、レスリングが強いだけでは社会に出てから苦労するかもしれません。そのため日頃の生活態度から、模範となるよう厳しく指導しています。

加えて私自身、インターハイの団体戦で初優勝を果たし、仲間と同じ目標に向かって切磋琢磨した経験から、チームで高め合う力は社会に出てからも必要だと実感してきました。個人戦はもちろん、団体戦でも日本一になるために仲間同士が「目配り・気配り・心配り」ができるチームづくりを目指しています。

子ども達の成長を感じる瞬間

指導を重ねる中で、練習でも選手たちの変化を感じるようになります。



▲全国大会チャンピオンの池田選手を指導している様子

舞鶴市レスリング協会は、指導者を増やすことが今後の課題と考えています。現在は私一人で未就学児から高校生まで教えています。まずは指導者をしっかり確保し、子ども達が安心して競技に集中できる環境をつくるという意味でも、舞鶴出身の選手が将来の選択肢の一つとして、指導者の道を選べる土台を築いていきたいです。

舞鶴出身の指導者を

ました。最初は、練習メニューなど私が全て指示を出していましたが、今では彼ら自身で考えて動き、練習内容も自分たちで考えることが多くなっています。「どんな練習が必要か」などを話し合い、対話ができるようになった姿に確かな成長を感じています。

vol.115

まいづる元氣人

子ども達が競技に集中できる環境を

社会に出ても通用する人間に